



信楽園病院

ふれあい ささえあい 地域と共に

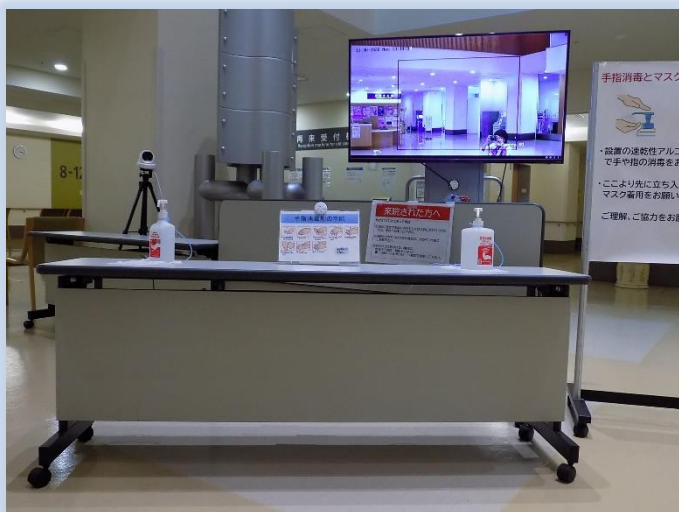
地域医療連携室だより



171号



正面入口に
サーモグラフィーカメラを導入しました



感染対策として、正面入口に来院者の体温を確認するサーモグラフィーカメラを設置しました。

来院時はマスクを着用いただき、設置アルコール消毒液にて手指消毒をお願いいたします。



年末年始休診のお知らせ

年末年始のため外来診療は12月29日(火)～1月3日(日)間休診となります。
救急対応は随時行っております。

お電話でお問合せください。TEL 025-260-8200(代表)

基本理念

病める人の権利と心情を重んじ信頼される医療を行います。

基本方針

- ・安全で質の高い医療を提供します。
- ・次世代の医療を担う人材の育成に努め、時代の変化に対応できる中核病院としての役割を果たします。
- ・地域包括ケアシステムを推進する取組みを進め、地域の医療、保健、福祉の向上に貢献します。
- ・患者さんに喜ばれ、誇りをもって働くことのできる病院づくりに努めます。

信楽園病院広報誌 地域医療連携室だより171号
令和2年12月発行

編集 社会福祉法人 新潟市社会事業協会
信楽園病院 地域医療連携室
〒950-2087 新潟市西区新通南3-3-11
TEL025-260-8101 FAX025-260-8102
[Http://www.shinrakuen.com](http://www.shinrakuen.com)

新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二

〒950-2087 新潟市西区新通南3-3-11
TEL025-260-8108

2018 年から院内で認知症サポートチーム(DST)の一員として活動しているが、せん妄の発症にベンゾジアゼピン (BZ) 系睡眠薬の関与を疑わせる症例を経験する。DSM-5 (米国精神医学会診断統計便覧第 5 版) によれば、成人の約 1/3 が不眠症状を有し、10~15%が日中の機能障害を経験し、6~10%が不眠症の診断基準に合致するという。また厚労省 NDB オープンデータによれば、加齢に伴い睡眠薬の処方率は上昇し、男女別では女性に多く、千人あたりの処方量は女性では 80~84 歳をピークとし、この年代は年平均 100 錠近く服薬する計算になるという。不眠症治療は睡眠衛生指導による睡眠習慣の修正と薬物療法が主体となるが、後者においては 1960 年代以降 BZ 系睡眠薬が漫然と処方される時代が続いてきた。BZ 系睡眠薬は GABA_A 受容体機能を増強することで抑制系神経伝達を促進し催眠鎮静作用を示すが、長期継続投与例における中断時の退薬症候、高齢者における認知機能低下、せん妄の惹起、転倒・骨折リスクなど様々な問題が指摘されている。認知症発症リスクについては最近の 14 論文、159,090 例のメタ解析でオッズ比 1.39 (95%CI: 1.21~1.59) とされ、また長時間作用型と短時間作用型の BZ 系睡眠薬の比較では有意差は生じなかったものの、長時間作用型で認知症発症リスクが上昇する傾向を認めた。

またせん妄との関連についても BZ 系睡眠薬はせん妄の代表的な直接因子であることは周知の事実である。このような経緯を踏まえ 2010 年メラトニン受容体作動薬ラメルテオン、2014 年オレキシン受容体拮抗薬スボレキサントが上市された。これらは BZ 系睡眠薬とは異なる作用機序を有し、不眠の病態を考慮した治療薬の選択を可能とした。ラメルテオンは体内時計と密接に関連するメラトニンの受容体作動薬であり、入眠困難例や不規則な概日リズムの修正効果が期待される。スボレキサントは覚醒系システムを司るオレキシン神経の活動を抑制することで催眠作用を発現し、入眠困難、睡眠維持困難の改善効果が期待される。これらの効果はせん妄の中核的な臨床像である睡眠覚醒サイクル障害の修正に寄与し、ラメルテオンやスボレキサントがせん妄の発症を有意に抑制することが複数の RCT で確認されている (ただし効能適応外)。

当院在宅医療バックアップシステム登録患者における睡眠薬処方状況を確認したところ、72 例（平均年齢 89.9 歳）中 19 例（26%）に何らかの睡眠薬が処方され、内訳は BZ 系 8 例、非 BZ 系 4 例、スボレキサント 8 例、ラメルテオン 2 例、トラゾドン 1 例であった。

現在国内で承認されている睡眠薬は、BZ 系睡眠薬 11 剤、非 BZ 系睡眠薬 3 剤、メラトニン受容体作動薬 2 剤、オレキシン受容体拮抗薬 2 剤である。これまで BZ 系睡眠薬のなかから、作用時間の長短（超短時間、短時間、中間、長時間）により薬剤選択がなされてきたが、今後は入眠困難、睡眠維持困難、概日リズム障害といった個々の睡眠障害パターンによりメラトニン受容体作動薬またはオレキシン受容体拮抗薬を選択し、効果不十分な場合に非 BZ 系睡眠薬を補助的に少量、短期間追加使用するという手法が主体になるであろう。こうした薬剤選択は BZ 系睡眠薬による高齢者の認知機能低下、せん妄、転倒・骨折リスクの低減にも寄与する。オレキシン受容体拮抗薬はスボレキサント上市後約 6 年で処方量は飛躍的に増加し、さらに最近レンボレキサントが上市された。現在国内外で開発、治験が行われている睡眠薬の多くがオレキシン受容体拮抗薬であり期待の大きさが伺える。

睡眠薬の処方に際しては、リスク・ベネフィットバランスを考慮したうえで個々の患者の特性に合わせた薬剤選択を心掛けたいものである。



ポリファーマシーについて

薬剤部 神田千尋

【ポリファーマシーとは・・・】

ポリファーマシーは「poly」＋「pharmacy」で文字どおり「多剤併用」を示す造語ですが、単に服用する薬剤数が多いことではなく、多剤併用のなかでも害をなすものを特にポリファーマシーと呼び、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下などの問題につながる状態¹⁾を指します。したがって、何剤からポリファーマシーとするかについて厳密な定義はなく、患者の病態、生活、環境により適正処方かどうか判断するべきとされています。

【問題のあるポリファーマシー】

ポリファーマシーのすべてが悪という事ではなく、疾患や病状に対して治療が行われた結果、ポリファーマシーに陥り、そのなかでも問題のあるポリファーマシー（表1）については早期に対応・介入することが求められます。また、定期的に10剤以上服用している場合は、薬物有害事象の発生が高くなるとされています。処方カスケードが存在する場合、老年症候群の悪化として発現している場合もあり発見が困難な場合があります。

《表1》問題のあるポリファーマシー

- | |
|------------------------------------|
| 1. 薬物有害事象の発現 |
| 2. 処方カスケードの存在 |
| 3. 服用アドヒアランスの低下 |
| 4. 10剤以上の服用(super-polypharmacyの存在) |
| 5. 必要な薬が投与されていない(過小医療) |
| 6. 同種同効薬の重複投与 |
| 7. 薬物-薬物相互作用、薬物-疾患相互作用の発現 |
| 8. 対処療法の漠然処方が見直されていない |
| 9. 嚥下機能低下などで内服困難な場合 |
| 10. 患者が処方を欲する場合 |

【ポリファーマシーの対策】

○処方の見直し

潜在的に不適切な薬剤のスクリーニングツールとして「Beers criteria」²⁾、「STOPP/START criteria」³⁾、「高齢者の安全な薬物治療ガイドライン 2015」⁴⁾などがあり、個々の薬剤の減薬基準が記載されています。また、Scott らが提唱した「減薬プロトコル(deprescribing protocol)」⁵⁾は、個々の患者の臨床背景を考慮することで減薬の適切性を判断できるものとなっています。

○「お薬手帳」の活用

お薬手帳には、手帳の所有者に関する基本情報、アレルギー、副作用の有無、過去の病歴、かかりつけ医・薬局、服用薬に関する情報、処方された薬の名前、使用量、服用回数・方法・期間などが記載されており処方薬に関する情報を医師や薬剤師に正確に伝えることができます。そして、重複投与を防いだり、相互作用を確認したりできます。

○薬剤部の取り組み

入院時に持参薬鑑別書を作成し、服薬状況や相互作用などを確認しています。その際、服薬アドヒアランスの低下が認められる患者様には、ご本人やご家族に服薬状況を直接確認することで、原因を推測し剤形の変更や服薬回数を少なくするなどの処方の見直しについて医師に提案し服薬コンプライアンスが向上できるように努めています。

○ポリファーマシーに対する取組の評価

ポリファーマシー解消の推進として診療報酬が設けられています(表2)。

《表2》ポリファーマシーに対する診療報酬

施設	項目	点数	内容
病院	薬剤総合評価調整加算	100点 (退院時1回)	入院前に6種類以上の内服薬が処方されていた患者について、処方内容を総合的に評価して、その内容が変更されて、療養上必要な指導を行った場合に算定可
	薬剤調整加算	150点 (退院時1回)	薬剤総合評価調整加算を算定した患者で、退院時に処方する内服薬が2種類以上減少した場合に算定可
	退院時薬剤情報連携加算	60点 (退院時1回)	入院前の内服薬を変更または中止した場合に、その理由や変更後の患者状況を文書で薬局に提供した場合に算定可
調剤薬局	服用薬剤調整支援料1	125点 (月1回)	6種類以上の内服薬が処方されている患者で、処方医に文書を用いて提案して内服薬が2種類以上減少した場合に算定可
	服用薬剤調整支援料2	100点 (3か月に1回)	6種類以上の内服薬が処方されている患者で、服薬情報を一元的に把握し、重複投薬の有無の確認等を行った上で、処方医にその解消を文書で提案した場合に算定可。

【参考文献】

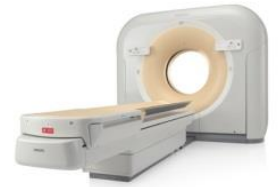
- 1) 厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）について」（平成30年5月29日医政安発0529第1号・薬生安発0529第1号）
- 2) American Geriatrics Society : American Geriatrics Society 2019 updated AGS Beers Criteria for potentially inappropriate medication use in older adult. J Am Geriatr Soc 67 : 674-694, 2019
- 3) O' Mahony D, et al : STOPP/START criteria for potentially inappropriate prescribing in older people : Version2. Age Ageing, 44 : 213-218, 2015
- 4) 日本老年医学会, 他・編 : 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015, メジカルビュー社, 2015
- 5) Scott IA, et al : Reducing inappropriate polypharmacy : The process of deprescribing. JAMA Intern Med 175 : 827-834, 2015

CT 検査について

放射線科

CT 検査とは

Computed Tomography の略で X 線を使って身体の断面を撮像する検査です。
頭部や胸部、腹部や四肢、血管など全身を対象として検査します。
MRI や超音波検査に比べて短時間で広範囲を撮影できることが特徴です。



CT 検査の実際

ベッドに仰向けに寝ていただき、動かないように体を固定させていただきます。
胸部や腹部の検査では両手を拳上した体位で合図に合わせて息止めをしていただき撮影します。
息止めの時間は体幹部で 10 秒程度です。
単純 CT のみでは十分な情報が得られない場合、医師の指示の下、造影検査を行います。



頭部撮影体位

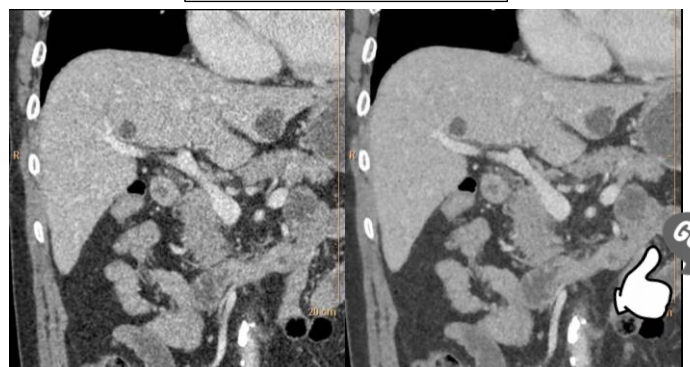


体幹部撮影体位

当院のCT装置の特徴

2020 年 3 月に CT 装置があたらしくなりました。
1 回転で最大 128 枚の画像を撮ることができます。
これまでは 64 枚しか撮れませんでした。
従来の装置にくらべて 1 検査あたり 20-50% 程度被ばくを抑えて検査をすることができます。
また画像の雑音（ノイズ）を大幅に抑える処理が可能となり診断しやすい明瞭な画像が得られています。

ノイズ低減処理の効果



処理なし

処理あり

当院では 1 年間に約 7500 件 CT 撮影を施行していて、年々撮影数は増加しています。
救急診療や病気の経過観察などにも欠かせない装置となっています。
患者様の負担を減らし、診療に貢献できるような画像を提供するため日々努めています。

年末年始に向けた外来の栄養指導



管理栄養士 岡畑美帆

年末年始はごちそうを食べるが、天候も悪いため、体を動かす機会が少なく、体重が増えやすい時期です。

若年、中年の方には年末年始の食事・飲酒の増量、活動量低下による体重増加をしないように注意喚起、適量の指導を行なっています。



反面！！

高齢の方には必要に応じてフレイル対策の栄養指導を行なっています。特に年末年始は・・・

●普段と違う食生活となり、食事が乱れる。

●新潟の冬は長く、外に出ない。

とフレイルに陥りやすい時期になります。



年末年始のフレイル対策

★1日3食しっかり食べましょう。

正月は2食になりがち。筋肉を落とさないためにも毎食食べるようにしましょう。

★毎食たんぱく質を取り入れましょう。

あんこ餅と野菜たっぷりの雑煮だけでは足りません。のっぺに鮭や鶏肉をたっぷり入れる、納豆もちにするなどたんぱく源を取り入れるよう意識しましょう。

★おうちでできる運動を。

椅子に座っての運動などおうちでできる運動をしましょう。



当院の年末年始メニューのご紹介



当院では入院をしていても行事を楽しんで季節を感じ、日々の治療への意欲に繋げて頂けるよう 栄養科より行事毎に変わりメニューを提供しています。年末年始は毎年、年越し献立、元旦はおせちといった特別メニューをご用意しています。年末年始の特別メニューもたんぱく質をしっかりと摂れるメニューとなっています。

年越しメニュー



- ・季節のお刺身
- ・年越しそば
- ・ほうれん草の浸し
- ・果物

お正月メニュー（おせち）



- ・有頭えび
- ・かすのこ
- ・黒豆
- ・伊達巻
- ・紅白なます